

今朝、メッチャ腹立ちましてん | 近江町市場 みやむら

今朝、地元テレビ局さんから、取材に来て下さったんです。

まあ、丑の日が近いからだなあ〜って思ってたいたら、やってきましたテレビで見かける有名アナウンサーさん。

アナ「うなぎの相場どうですかあ〜？」

僕 「高い高いって、報道されてますけど、実際には5月からかなり下がってまして、昨年よりほんのわずか高い程度になってますよ」

アナ「でも、近江町の他のお店は高いお店も有りますよね〜？」

僕 「他店は分からないけど、実際にいつもの仕入れ業者さんからの相場が下がっているのが事実ですよ」

アナ「え?? そうなんですか? じゃ、申し訳無いんですけど今回の番組の趣旨と合わないので他店で取材させていただきます。失礼します」

.....???

って、事は、おそらく「今年とうなぎは高い」という内容にしたいのだと思います。

実際に相場は下がっているのに、テレビ局的には「高い!!」と言いたいから、他の高く販売しているお店で取材するって事だと思います。

これって、アリなんですか?

情報操作?では無いでしょうか?

確かに、他のお店で、うなぎを高く販売しているお店があります。

そのお店は、春先本当に相場が高かった時に、サイズを少し小さくしてウチよりかなり安く販売していましたが、仕入れの相場知っている立場で言えば、その販売価格では全く儲かって無かったと思います。

だから相場が下がった今、販売価格そのまま利幅を増やして儲けを出しているんだと思うのです。

それは、そのお店のやり方であって、問題ないと思います。

が、

が、

それが、「今年とうなぎは高い!!」って、テレビに放送されるのは、あまりにも嫌な気持ちです。

実際に、春に比べて相場はかなり下がってて、

「安くなったから土用丑の日にはうなぎを食べてください!!」

って、アピールしたいのに、水を差すような内容の番組を作るために、それに合ったお店で取材をする。

こういうやり方って、本当に腹が立ちました。

どこの局かは、言うつもり有りませんが、

報道の世界って、こういう風に時には事実と違った内容のニュースを作っているのかと思うと、がっかりします。

<http://ameblo.jp/unagiyasan/entry-11310880083.html>

先週の金曜日は土用の丑の日だったが、当方うなぎは食べませんでした。今どき鰻なんぞ、何時だって食えるしね。

基本、こういうマスコミの対応というのは、相場の世界じゃいつもの事。穀物の熱波被害の映像も、とにかく一番悪いところだけを撮るわけだから。

〔貴金属〕

今週の金の値動き

	8月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
7月23日	¥3,956	-45	¥3,958	-46
7月24日	¥3,973	17	¥3,975	17
7月25日	¥3,984	11	¥3,986	11
7月26日	¥4,047	63	¥4,050	64
7月27日	¥4,074	27	¥4,077	27

金相場は、先週号においては『長期的には金の輝きはまだ失われたいと考えているが、逆に目先はまだ弱いとの考えである。戻り売り中心の逆張りでの対処がベターであると見る』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けはスペイン国債下落の報から、いきなり円高/ユーロ安が大きく進み、金だけではなく商品市場全体・株式市場なども広範に下落。3,940円(7/24)まで下げたわけだが、そこからは一転して週末にかけて反騰。4,000円台後半まで戻し、その後の夜間取引では4,100円台も出ている。

○東京金日足

…削除済み…

年初来の高値 4,654円(2/27) → 3,886円(6/4)まで768円下げた相場は、戻っても4,200円台には戻せず、今も4,000円を挟んだもみ合いとなっている。

さて来週は、FOMCでの金融緩和策が出そう状況になってきており、QE3とまでは行かないかもしれないが、何らかのものは出そうだ。週後半までの戻りは、このFOMCを睨んだものだ。

ただし本格的なQE3は、大統領選を睨んで9月に行われるのではないかと読んでおり、このまま金および商品相場が大暴騰するということまでは行かないのでは？

穀物相場の高騰も消費者物価を押し上げる可能性があり、そんなに思い切った金融緩和はしづらと思うのだが、如何に…。

いずれはQE3が行われると、…中略…

なお一代の動きは以下のとおり。

東京金一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年8月	¥4,506	8月29日	¥4,754	9月7日	¥3,808	12月30日	¥4,074
2012年10月	¥4,229	10月27日	¥4,652	2月27日	¥3,808	12月30日	¥4,074
2012年12月	¥4,037	12月26日	¥4,654	2月27日	¥3,808	12月30日	¥4,076
2013年2月	¥4,654	2月27日	¥4,654	2月27日	¥3,885	6月4日	¥4,079
2013年4月	¥4,307	4月25日	¥4,342	4月27日	¥3,886	6月4日	¥4,077
2013年6月	¥4,023	6月27日	¥4,175	7月4日	¥3,940	7月24日	¥4,077

○NY金日足(7/26現在)

…削除済み…

週末 7/27 の NY 市場は、前日比 2.9 ドル高の 1618.0 ドルでの終了。高値は 1628.6 ドルまで出ており、7 月の中では最高値である。国内夜間取引では、4,117 円の高値まで出しており、週末の NY 金の上昇は織り込み済み。

チャートでは、まだ 1530 ドル～1640 ドルでのみみ合いの範囲内であり、6 月の高値 1642.4 ドル (6/6) を抜けないと上放れにはならない。

どこかでそれを抜け、更に 1800 ドルオーバーまで買われる状況となれば、それこそ 2000 ドルを抜ける大相場の到来だろう。

しかしまだ、そうなるかは判らない。1600 ドルを割り込み、また元の木阿彌になる事も十分に有り得る。当方の戦略は、まだ逆張りとの考えだ。

CFTC 発表の 7/24 現在のファンドのポジションは、…中略…

7/27 現在の ETF 残高は、…中略…

結論として当方の相場観は、FOMC 明けはもう一度下がると読んでおり、まだ逆張りの展開が続くだろうと見ている。押し目買い、吹き値売りでの対処がベターか。

今週のプラチナの動き

	8月限(当限)	前日比	6月限(先限)	前日比
7月23日	¥3,498	-79	¥3,510	-82
7月24日	¥3,519	21	¥3,528	18
7月25日	¥3,486	-33	¥3,495	-33
7月26日	¥3,533	47	¥3,543	48
7月27日	¥3,959	61	¥3,572	29

プラチナ相場は、先週号においては『底は入っていると考えてはいるが、上に行く力もまだ無し。あまり時間が掛かると、底入れ完了がダマシになるケースもあり、しばらく様子見が正解だろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けに進んだ円高と株安からの下落で大きく値を消した相場が、**3,460円(7/24)まで下落**。6/4に記録した**3,499円**を割り込む下げとなったが、週末に掛けては戻りに入り、3,500円台後半までは戻した。

○東京プラチナ日足

…削除済み…

結果的に**3,499円(6/4)**を割り込んだわけで、それが大底ではなかったと証明されてしまった格好だ。今度は**3,460円(7/24)**が大底だとなるかは、しばらく見ないと判断出来ないだろう。

周りの状況を見る限り、…中略…

確かに今のドルベース1400ドル割れ水準は、採算コスト以下とも言われ、また各社が予想する今年の価格予想の下限1450ドルをも大きく割り込んでいる水準でもある。だから買い易いわけで、その通りに上がれば問題はないのだが、金とのサヤは開く一方でもあり、ちょっと危険な匂いがする状況である。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京プラチナー代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年8月	¥4,581	8月29日	¥4,726	9月7日	¥3,380	12月30日	¥3,559
2012年10月	¥3,918	10月27日	¥4,570	3月14日	¥3,375	12月30日	¥3,566
2012年12月	¥3,605	12月26日	¥4,582	3月14日	¥3,471	7月24日	¥3,579
2013年2月	¥4,535	2月27日	¥4,589	3月14日	¥3,468	7月24日	¥3,576
2013年4月	¥4,090	4月25日	¥4,141	4月27日	¥3,466	7月24日	¥3,575
2013年6月	¥3,681	6月27日	¥3,855	7月5日	¥3,460	7月24日	¥3,572

○白金－金価格差日足

…削除済み…

週末現在のサヤは、3,572円(プラチナ)－4,077円(金)＝**－505円**。

−300 円〜−400 円でのみ合いを下抜けたサヤは、−500 円超の拡大。まだ縮小方向に向い
そうもなく、これもプラチナには弱材料であろう。

結論として当方の相場観は、また崩れに入った展開であり、金以上に戻り売り圧力が強い相場
であろう。8 月はもう一度大きく崩れても不思議はないとみて、戻り売り方針がベターであろう。

〔穀物〕

今週のコーンの値動き

	9月限(当限)	前日比	7月限(先限)	前日比
7月23日	¥32,010	120	¥28,550	-520
7月24日	¥32,000	-10	¥28,320	-230
7月25日	¥31,990	-10	¥28,530	210
7月26日	¥31,800	-190	¥28,630	100
7月27日	¥31,520	-280	¥28,440	-190

まずはコーンから…

先週号においては『天井はまだ確認は出来ないが、天井圏に入ってきているという見方は変わらない。いずれここからの高値は、一発で消す動きとなるだろう。だが短期張りなら、まだ買った方がマシの状況に変化はない』とコメントした。

今週の相場展開は、前週末の高値 29,660 円からは大きく下落し、27,590 円 (7/24) まで一時は 2,000 円超の下げを記録するものの、そこからは再び反騰。28,000 円台でのみ合いとなった。

○ 東京コーン日足

…削除済み…

21,490 円 (6/18) →29,660 円 (7/20) までの上げ幅は 8,170 円。そこから一気に 2,000 円下げたが、崩れきれずに 1,000 円戻してもみ合っているのが今の状況だ。

29,660 円は、相対力指数の推移からしても一つの天井だろうが、それよりも高いかもしれない 2 番天井を記録してからでないと、まだ崩れには入りそうもないか。それを付けたら、少なくとも 25,000 円くらいまでは一度大きく下がるだろうが、それは 8 月中に起きるのではないかと考えている。

ともかく現状では、…中略…

先週号では、以下のようにコメントしたわけだが、その考えは継続だ。

『当方は、天井圏には入ってきていると考えているが、ここだ！と売るにはまだ決め手がない情勢であるとの判断だ。むしろ今すぐなら、8 月中もホット&ドライが続く、米国の 55%は干ばつと騒がれている中では、瞬間的に売られたところは買った方がマシの状況』

なお一代の動きは以下のとおり。

東京コーン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年9月	¥27,440	8月16日	¥32,890	7月23日	¥21,930	11月28日	¥31,520
2012年11月	¥24,400	10月17日	¥29,700	7月23日	¥21,060	6月4日	¥28,760
2013年1月	¥21,790	12月16日	¥29,790	7月23日	¥20,520	6月4日	¥28,460
2013年3月	¥23,290	2月16日	¥29,430	7月23日	¥20,820	6月4日	¥28,480
2013年5月	¥23,250	4月16日	¥29,570	7月20日	¥21,040	6月4日	¥28,460
2013年7月	¥21,550	6月18日	¥29,660	7月20日	¥21,490	6月18日	¥28,440

○シカゴコーン日足 (7/26 現在)

…削除済み…

週末 7/27 のシカゴ市場は、9 月限で前日比 17.25 セント高の 798.50 セント。高値は 801.00 セントまであったが、8 ドル台は維持できずに終わるパターンだ。

なおこのチャートは 2 番きりの 12 月限を表示してあるようで、チャート会社がそう作っている理由は当方には判らんが、これだと 8 ドルが高値になっている。

週末にシカゴで買われた要因は、最近の降雨が予想を下回った事や、そもそも受粉期を過ぎたコーンの作柄改善はもう見込めないとする見方が強いこと。さらに来週もホット&ドライの天気予報が出ている事などが挙げられる。

だが 8 ドルを維持できないのは、利食い売りもでるからだろうし、高ければレーショニング(価格高騰からの消費減退)が起きるとの見方が台頭するからだろう。

CFTC 発表の 7/24 現在のファンドのポジションは…中略…

結論として当方の相場観は、シカゴ 8 ドル台、東京 29,000 円台からの上値も重くなって来たが、今の崩れきれない状況が続けば、もう一段高があるかも。相場は大きく乱高下する可能性が強く、突っ込み買い、吹き値売りでの対処がベターか。

今週の大豆の値動き

	8 月限(当限)	前日比	6 月限(先限)	前日比
7 月 23 日	¥59,900	-100	¥49,510	-1930
7 月 24 日	¥57,800	-2100	¥47,460	-2050
7 月 25 日	¥59,770	1970	¥47,230	-230
7 月 26 日	¥61,300	1530	¥47,890	660
7 月 27 日	¥59,300	-2000	¥47,920	30

続いて一般大豆です…

先週号においては『相場格言では「天狗に買い無し」とは言うものの、現状の天候や在庫率を考えると売りにくい。行き着くところまで行かないと、まだ下げない相場であろう』とコメントした。

今週の相場展開は、週明け 2 日間で急落した相場は、先週の高値 52,190 円 (7/20) →46,400 円 (7/25) まで 5,790 円の大暴落。そこからは 2,000 円近く戻して終わる格好である。

○ 東京大豆日足

…削除済み…

41,750 円 (6/4) →52,190 円 (7/20) までの上げ幅は 10,440 円幅だったが、一気に半値押しをしたわけである。

「とてもじゃないが、まだ売れない」とした途端に急落するとは、相場というのは皮肉なものだ。いや、単に当方が曲がっているだけかもしれないが…。

上ザヤだった中物限月の下げがもっと大きいのは、それまでに上がった分の押しなので、ある意味では当然。しかしおそらく、今週大きく下げて 46,400 円を記録した価格は、おそらく当面

の押し目底であろう。

ホット&ドライ懸念もまだ続いており、在庫率はもともと低い大豆に関しては、このまま崩れるのは想定しづらい。当方は相場観を、ここからは押し目買いに転換だ。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京一般大豆一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年8月	¥47,450	8月16日	¥61,960	7月23日	¥35,610	12月15日	¥59,300
2012年10月	¥44,250	10月17日	¥62,100	7月23日	¥36,410	12月15日	¥58,300
2012年12月	¥37,500	12月16日	¥63,950	7月23日	¥36,830	12月16日	¥57,360
2013年2月	¥41,900	2月16日	¥60,000	7月23日	¥41,050	2月16日	¥52,180
2013年4月	¥45,350	4月16日	¥56,480	7月23日	¥41,750	6月4日	¥50,030
2013年6月	¥44,700	6月18日	¥52,190	7月20日	¥44,400	6月18日	¥47,920

○シカゴ大豆日足 (7/26 現在)

…削除済み…

週末7/27のシカゴ市場は、8月限で前日比28.50セント高の1684.25セント。17ドル台に乗せで、史上最高値の更新したわけだが、このチャートはなぜか3番限の11月限を標示してあるため、その価格は出ていないように見える。

チャート会社がそうしているわけで、当方には理由は判らん。

このチャートでの11月限は、週末は34.25セント高の1601.75セント。この値位置での乱高下が続いている展開だ。

週末の上げ要因は、ホット&ドライの予報をはやしたものであり、今後もその天候が続くと大豆も大きなダメージとなりそう。

また週末にはインフォーマ社が単収、生産高を大きく下方修正した事も上げ要因となった。詳細は以下のとおり…

○単収 38.5Bu/Ac (前回予想40Bu/Ac)

○生産高 28億9000万Bu (同30億1200万Bu)

CFTC発表の7/24現在のファンドのポジションは、…中略…

結論として当方の相場観は、今週の6,000円ほどの下落で、押し目完了となった可能性が高いだろう。相場は2番天井に向かって上昇すると見て、押し目買い方針に転換である。

[ゴム]

今週のゴムの値動き

	7月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
7月23日	223.0	-11.0	231.7	-13.6
7月24日	215.5	-7.5	227.0	-4.7
7月25日	215.5	0.0	227.0	0.0
	8月限(当限)	前日比	1月限(先限)	前日比
7月26日	215.7	0.6	229.6	
7月27日	220.3	4.6	235.0	5.4

先週号においては『235円～255円のもみ合いの継続が順当だろう。その中で、どちらかと言えば売りに分がある相場であると見ている』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けは円高/ユーロ安の進行から株式・商品市場とも大きく崩れた展開を受け、このゴムも急落。222.4円(7/24)と年初来安値を大きく更新し、その後は戻して235円での終了となった。

○東京ゴム日足

…削除済み…

欧州債務危機も中国の景気減速もあまり話題にされず…と見ていたものが、週明けの大陰線は、それが一気にまとめて材料視された事から出たものである。

だが週末にはもう材料織り込み済みとなっており、今度はもうFOMCの話題である。最近の市場はそういう事が早いわけで、世間はどうぞオリンピック一色だろうから、なおさら経済ニュースは蚊帳の外に置かれるかもしれない。

ともかく先週号で『今は235円～255円の20円幅のもみ合い。260円と来れば買いトレンドに変化。230円とくれば売りトレンドに変化であり、抜けるまでは逆張り戦法での対処だろう』としたものが、割れたのだから一時的に売りトレンドが発生したわけで、これで240円と来れば再び売られる公算が大だろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京ゴム一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年7月	324.0	1月26日	342.0	2月27日	210.5	7月25日	215.5
2012年8月	340.7	2月24日	344.4	2月27日	213.9	7月26日	220.3
2012年9月	341.2	3月27日	341.9	3月27日	217.3	7月24日	224.6
2012年10月	307.2	4月24日	317.8	5月2日	219.8	7月24日	228.0
2012年11月	267.8	5月28日	274.0	5月30日	221.3	7月24日	231.0
2012年12月	233.3	6月26日	259.6	7月4日	222.4	7月24日	233.2
2013年1月	230.2	7月26日	236.7	7月27日	228.3	7月26日	235.0

当先のサヤは、8月限220.3円～1月限235.0円と14.7円の順ザヤ。順ザヤ幅はまた拡大している。

週末現在の輸入採算価格は、…中略…

国内営業倉庫在庫は、7/10 現在で 1,250 トン減の 10,557 トン。6 旬連続の減少である。

上海ゴム在庫は、…中略…

上海ゴム価格は、7/23 に暴落し、今週は 21,000 元台まで一時下落。

タイ政府による市場介入は、これといったものが見られず。7 月限納会は 238 枚の受け渡し枚数があったが、8 月以降も期限切れの渡し物が控えていると見られ、順ザヤは拡大傾向を強めるものと見られている。

今週の下落は、改めてゴム市場の環境の悪さと、下降トレンドの継続を示したわけであり、立ち直りは容易ではないだろう。

結論として当方の相場観は、戻しても 240 円～250 円が限界だろう。再度、戻り売り方針で、更なる年初来安値の更新を狙う相場であろう。

〔原油・石油製品〕

今週の原油の値動き

	7月限(当限)	前日比	12月限(先限)	前日比
7月23日	¥49,500	-520	¥49,090	-1550
7月24日	¥49,290	-210	¥48,570	-520
7月25日	¥49,230	-60	¥48,310	-260
7月26日	¥49,410	180	¥48,970	660
7月27日	¥49,450	40	¥49,740	770

まずは原油から…

先週号においては『相場は底入れ→上昇トレンドへと変化しただろう。大きく買われる材料は見当たらないが、材料は後から出てくるものであり、ここは素直にチャートに従うのが良いだろうと見る』とコメントした。

今週の相場展開は、NY原油は先週高値 92.94 ドル (7/19) から下落に転じ、特に週明け 23 日は東京市場オープン中の夜間取引で大きく下落。円高/ユーロ安からの商品・株式市場の全面安を映す展開で、86.84 ドル (7/25) まで値を消した。

ただし、そこからは反発に転じ、90 ドル辺りまでは戻している。

東京原油は、おなじく先週末の高値 51,100 円 (7/20) から週明けは大きく崩れ、48,000 円そこそこまで 3,000 円ほどの暴落。しかし週末に掛けては、下げ幅の半分以上は回復して終了である。

○ NY 原油日足 (7/26 現在)

…削除済み…

週末 7/27 の NY 市場は、前日比 0.74 ドル高の 90.13 ドル。週明けに急落した要因の欧州債務危機問題に対し、ECB が対策を出すだろうとユーロが反転したこと、また FOMC での金融緩和期待なども膨らみ、相場は 90 ドル台を回復したわけだ。

国内換算では 15 時半比 200 円高であるが、夜間取引で 5 万円を回復しているため、これは織り込みずだろう。週明けの夜間取引の動きに注目だ。

なお週末のロンドンブレントは 106 ドル台、ドバイ原油は 102 ドル台である。こちらも先週末の水準までは戻している。

今週初めは大きく下がってしまったわけだが、チャートはまだ理想的な押し目買いパターンである。やはり 77 ドル台で NY 原油は底打ちしたのだろうと見ている。

7/24 現在のファンドのポジションは、…中略…

○東京原油日足

…削除済み…

63,550 円 (3/15) →44,190 円 (6/26) まで 19,360 円と 2 万円近く下げた相場が、51,100 円まで 6,910 円戻し、その後 3,000 円下げて、また戻り出しているのが現在の相場だ。

当方としては、安値から1万円上げの54,000円台はあるだろうとの見方は変わらないが、ECBの動向とFOMC明けの動向で、どうなるかだ。弱い場合は、いずれはそこまで上がるだろうが、しばらく5万円を中心にもみ合いをする場合もあるだろう。

なお一代の動きは以下のとおり。

東京原油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年7月	¥51,290	2月1日	¥63,810	3月15日	¥44,000	6月26日	¥49,450
2012年8月	¥59,290	3月1日	¥63,550	3月15日	¥44,230	6月22日	¥50,580
2012年9月	¥60,800	4月2日	¥61,900	4月4日	¥43,780	6月26日	¥50,340
2012年10月	¥57,430	5月1日	¥57,710	5月2日	¥44,310	6月26日	¥50,080
2012年11月	¥47,650	5月1日	¥51,130	7月20日	¥44,190	6月26日	¥48,910
2012年12月	¥47,580	7月2日	¥51,100	7月20日	¥46,240	7月3日	¥49,740

結論として当方の相場観は、NY原油のファンドポジションを見た場合、明らかに投機資金が流入し始めているのは事実。押し目買いパターンを継続できるかどうか注目だ。

今週のガソリンの値動き

	8月限(当限)	前日比	1月限(先限)	前日比
7月23日	¥62,100	-1540	¥58,880	-1700
7月24日	¥61,300	-800	¥58,420	-460
7月25日	¥60,880	-420	¥57,890	-530
	9月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
7月26日	¥61,730	480	¥58,570	
7月27日	¥62,160	430	¥59,550	980

続いてガソリンです…先週号においては『底入れ→上昇トレンドへと変化した相場であろう。押し目買いの継続で、半値戻しの65,000円台を目指す相場であろうと見る』とコメントした。

今週の相場展開は、先週末に61,060円(7/20)を記録したところから、週明けは商品の全面安を受けて、このガソリン相場も急落。57,000円台まで3,000円以上値を消す展開となったが、週末に掛けてはまた戻して終了である。

○東京ガソリン日足

…削除済み…

77,810円(3/15)→53,460円(6/26)まで24,350円下げた相場は、61,060円(7/20)まで7,600円の反騰。おおよそ3分の1戻しを演じた後、また大きな押し目を付けた格好だ。

このまま高いと思いきや、いきなりまたスペイン問題などで大きくユーロ安に進んだ事が嫌気されてしまったわけだが、まだ下抜けてしまったわけではない。

57,000円台で下げ止まったのであれば、まだ更なる上昇の目は残っていると見ており、それはひとまず24,000円下げの半値戻し=65,000円ラインと考えているのだが、その方向に相場が向かうかどうかは来週の動き次第だろう。

一代の推移は、以下のとおり。

東京ガソリン一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年8月	¥66,800	1月26日	¥78,910	3月15日	¥57,700	6月22日	¥60,880
2012年9月	¥75,030	2月27日	¥77,810	3月15日	¥56,410	6月22日	¥62,160
2012年10月	¥74,980	3月26日	¥75,430	3月28日	¥54,850	6月26日	¥61,410
2012年11月	¥69,280	4月26日	¥69,690	4月27日	¥54,040	6月26日	¥60,400
2012年12月	¥61,470	5月28日	¥61,930	5月30日	¥53,530	6月26日	¥59,840
2013年1月	¥54,070	6月26日	¥61,060	7月20日	¥53,460	6月26日	¥59,580
2013年2月	¥58,670	7月26日	¥59,590	7月27日	¥58,160	7月27日	¥59,550

7/27現在の業者間転売価格は、…中略…

7/21現在のガソリン在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、週明けから急落を演じてしまった相場だが、まだ底抜けしたわけではない。押し目買いの継続で、一段高を狙う相場はまだ死んでないとする。

今週の灯油の値動き

	8月限(当限)	前日比	1月限(先限)	前日比
7月23日	¥60,440	-1620	¥62,500	-1610
7月24日	¥59,610	-830	¥62,000	-500
7月25日	¥59,180	-430	¥61,460	-540
	9月限(当限)	前日比	2月限(先限)	前日比
7月26日	¥60,510	610	¥61,730	
7月27日	¥61,440	930	¥62,860	1130

最後に灯油です…先週号においては『底入れ→上昇トレンドがハッキリしてきた相場であろう。押し目買い継続で、秋の大相場に期待したい』とコメントした。

今週の相場展開は、週明けは商品相場全面安の展開に巻き込まれ、前週末の高値 64,500 円からは一気に急落。結果、25日には 61,000 円台前半まで大きく値を消し、4,000 円あまりの下落に。

その後はまた戻りに入り、週末は 62,000 円台後半まで戻しての終了となった。なお、夜間取引では 63,000 円台まで戻している。

○ 東京灯油日足

…削除済み…

75,730 円 (3/15) →57,040 円 (6/25) まで 18,690 円下げた相場は、64,500 円 (7/20) まで 7,460 円戻して、4,000 円下げ、また 3,000 円上がった格好。

底入れ→上昇トレンドがハッキリしてきた…とコメントした途端に急落したのだから、正直、当方は曲がり屋である。しかし週末までの動きを見れば、まだ死んではない相場だと見ているのだが、さて？

なお一代の推移は、以下のとおり。

東京灯油一代の動き

	始値		高値		安値		現在値
2012年8月	¥63,840	1月26日	¥75,130	3月15日	¥54,800	6月29日	¥59,180
2012年9月	¥73,400	2月27日	¥75,730	3月15日	¥54,950	6月29日	¥61,440
2012年10月	¥74,590	3月26日	¥75,370	3月28日	¥55,650	6月29日	¥62,340
2012年11月	¥70,800	4月26日	¥71,400	4月27日	¥56,350	6月26日	¥63,000
2012年12月	¥64,110	5月28日	¥64,590	7月20日	¥56,800	6月26日	¥63,260
2013年1月	¥57,800	6月26日	¥64,500	7月20日	¥57,080	6月29日	¥63,210
2013年2月	¥61,810	7月26日	¥62,870	7月27日	¥61,350	7月26日	¥62,860

7/27 現在の業者間転売価格は、…中略…

7/21 現在の灯油在庫は、…中略…

結論として当方の相場観は、週明けから思わぬ急落を喰らった相場であるが、押し目買いのトレンドはまだ変わっていないだろう。8月からの反騰攻勢に期待したい。

[為替]

○ ドル/円相場日足

…削除済み…

週末の NY 市場では 78.43 円と、ほぼ先週末と変わらない水準で終了。今週週明けに、東京市場では一時円高が **77.94 円 (7/23) まで進んだ**わけだが、何とか 6/1 の 77.65 円は割り込まず、2 月の 76.02 円をターゲットにする展開にはならなかった。

メリマンの言う…中略…

○ ユーロ/円相場日足

…削除済み…

週末の NY 市場では 96.48 円 (安値 97.03 円) とユーロは戻しているわけだが、今週明けに大きく進んだ円高/ユーロ安は、**94.10 円 (7/24) までの円高**だった。

『あまり騒ぎにはなっていないものの、またユーロ安/円高の進行である。**6/1 の円高ピークである 95.58 円は抜いてしまった**わけで、今までならこのパターンは大騒ぎで、商品相場の急落なのであるが、今回は全くそうになっていない。相場のテーマが変わってしまったのだろう』と先週号でコメントした途端、**そのとがめが出るかのように 7/24 までに商品市場も急落**したわけだが、それも ECB 総裁のコメントで落ち着いたようだ。

…中略…

○ ユーロ/ドル相場日足

…削除済み…

週末のユーロ/ドルは、1.239 付近まで急伸。**7/24 に 1.204 までドル高/ユーロ安が進行**した後、**ECB 総裁が断固とした措置を取ると明言した事から、一転してドル安/ユーロ高**となっているわけだ。

1.275 を超えればトレンド変化であるが、さてそこまでユーロが戻せるものなのかどうか？商品相場の動向も、やはりこのユーロの動向次第の面は強い。今週初めの、東京市場の相場動向を見る限り、やはりテーマが全く変わったというのは、間違いだったのだから。

このレポートは、私が個人的な判断で書いたものです。

内容の責任はすべて私に帰するものですが、取引に対する利益を保証するものではありません。

(当たり前ですが念のため)

ひげの中ちゃん相場情報

中田幸一郎

メールアドレス info@higenaka.com